

平成 30 年 4 月 4 日

## 院内倫理委員会（迅速審査）議事録

日 時：平成 30 年 4 月 4 日（水）午後 3 時 30 分～3 時 45 分

場 所：院長応接室

出席者：上松臨床研究センター長、三田統括診療部長、伊藤看護部長、山崎薬剤部長、高橋事務部長

欠席者：関本副院長

### 議 題

課題 178：プリマキンを用いた先進的 HIV/AIDS 医療の実施

### 議 事：

申請者 感染症内科 上平朝子 科長

感染症内科 渡辺 大 医長・来住 知美 医師より以下のように説明がなされた。

今般 HIV 感染症の早期診断が進みつつあるが、いまだにニューモシスティス肺炎で AIDS を発症し、死に至る症例も存在する。ニューモシスティス肺炎には第一選択薬としてスルファメトキサゾール・トリメトプリム製剤、第二選択薬としてペンタミジンが用いられるが、有効性や安全性に問題がある場合がある。一方本邦ではプリマキンはニューモシスティス肺炎の治療薬としては適応外であり、マラリアの治療薬として承認されているのみであるが、ニューモシスティス肺炎の治療薬としてガイドライン等で示され、欧米では承認されている。現在ニューモシスティス肺炎で AIDS を発症し、入院加療中の患者さんがあり、ST 合剤にて治療を開始したところ薬剤熱、薬疹のため中止、ペンタミジン点滴に変更するもアナフィラキシーショックのため中止となった症例がある。本症例に対してプリマキンによる治療を行いたいと考え、プリマキンを用いた先進的 HIV/AIDS 医療の実施を申請する。

説明後、委員から以下の質問がなされた。

医学的な必要性、緊急性についてはいかがか。

現在入院中であり、第一、第二選択薬を使いがたく、ニューモシスティス肺炎の改善が見られないため、可及的速やかにプリマキンによる治療を行いたい。

審議の結果、特に異論なく承認となった。